

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.39

開催地：八代市高田校区

平成19年10月17日(水)、八代市高田校区(会場：高田公民館)において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約20名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	16名
市外	1名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・計画高水流量の説明で、洪水調節施設と言っているが、対策工法の説明で堤防嵩上げはダメ、河床掘削もダメ、拡幅もダメというのなら、ダムしか残らないのではないのか。
- ・ダムを前提しないと一言いながら、冬柴大臣が国会で、河川整備基本方針は、「いわゆる球磨川水系全体、広い範囲においてこの川辺川ダムは必要なのかどうかということ判断される一つの方針」と明確に答えている。河川整備基本方針がダム前提であり、河川法違反となっていることを自ら認めている。訂正して欲しい。
- ・ダムの質問が出ると、ダムの議論は整備計画を策定する段階で行うと言っているが、この報告会は何なのか。こんな報告会は意味が無い。これを持って説明責任を果たしたと言うのはやめて欲しい。
- ・小委員会に森林水文学でおかしいと言える人がおらず、国交省の資料に追従して議論された。環境についても、小委員会には水生昆虫、魚類の専門家しかいなかった。
- ・説明資料に、川辺川ダムと市房ダムを例として確認したと書いてある。なぜ川辺川ダムについてこの報告会で説明しないのか。おかしい。
- ・250年間萩原堤防は決壊したことが無い。人吉も5,700m³/s流れ、昭和40年の時より川幅を拡げて橋を掘削したので、人吉では水害は起きていない。わざわざ川内川の例を出しているのは問題がある。基本高水流量や森林の保水力についても、現場を知らない専門家ではない委員が数字を決めてしまった。デタラメな委員会だった。
- ・住民討論集会で人吉市の河床掘削は、河床が堅くて出来ないと言われた。いつからこんなに柔らかいとの話になったのか。

【球磨川の治水対策について】

- ・流藻川について、過去に一回護岸が崩れている。流藻川6号橋の付近で簡単な護岸工事をお願いしたい。
- ・荒瀬ダムが出来てから、地域コミュニティが壊れた。設計洪水位を超える流量が流れていることについて、熊本県は住民に本当の説明をしていない。国交省も設計洪水量を超えて流れているのを認識しながら水利権の更新を行っている。県はきちんと庁内で対応について検討して欲しい。国交省も指導をして欲しい。
- ・ダム設計洪水位という言葉はいつできたのか。県からは荒瀬ダムを造ったときは無かったと聞いている。
- ・萩原堤防の深掘れ対策の現状はどうなっているのか。

【球磨川の環境について】

- ・萩原橋付近に深掘れ対策として砂利や石を入れると言われていたが、袋詰めで入れている。あれだとゴミが溜まってしまい、魚が捕れなくなる。
- ・遙拝堰の下流が掘れているから砂利を入れて欲しい。今は産卵場になっていない。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日HPに掲載させていただきます。

